神奈川県立平塚ろう学校　令和５年度第３回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第３回学校運営協議会
開催期日	令和６年２月 26 日（月）
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校　会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員７名
次回開催予定日	令和６年５月頃
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　水上 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）　令和５年度学校評価（年間評価）について （２）　令和６年度～令和９年度の学校のミッションについて
審議（会議）経過	（１）　令和５年度学校評価（年間評価） 学校目標１ 【意見】 ・学部を超えた連続性を考察する機会、学び合う機会となったとなっているが具体的にどんな学びがあったのか聞かせて欲しい。また、教員の他学部体験は良いことであり、できることならば、卒業後の暮らしを見ることも大事である。 【説明】 ・授業を見て学んだことなどを、アドバイスシートを記入してもらっている。気軽に空いた時間に見に行けるという狙いで実施した。「実態がわからなかった生徒を知ることができた。」「幼稚部が言葉を獲得していく流れを知ることができた。」「高等部になると、手話がメインになっていく」といったことなどが多かった。まずは、知ることが大切である。 【意見】 ・気軽に見学にいく、というのはとても大事なこと。研究等では労力と時間がかかる。気軽に取り組むことの積み重ねがとても重要で、授業力向上につながる。 【意見】 ・今後、タブレットをどのように活用していくのか。授業しやすいツールとして導入していくのか、IT リテラシーへの学び等の取り組みはどのようになっているか。ろう者にとってはとてもよいコミュニケーションツールとなると思うが、そういう活用も考えているのか。 ・文科省としてはそれを必要と考えている。技術、コミュニケーション等多くの目的が求められていると思う。 【説明】 ・色々な事の学びができると想定できる。GIGA スクール構想を進められるが、職員でも ICT に詳しい人は、理解できるが、難しい場合もある。職員の意識の向上や技術力向上を進めないといけない。日常の授業で活かしていくことも必要と考えており、その中で、出前授業の外部講師の力を借りる方法も一つである。なかなか現場は追いついていないのが実情である。 ・一人１台端末以外に、専門的な技術が学べる PC が整備されている。 【意見】 ・児童生徒のプログラミングの能力をあげていくのか。プログラミング教育の目指すものは、物の見方や考え方を伸ばすことにある。県から、色々な外部の力を借りるシステムができているものもある。小中学校には、特

	別教育支援員などが配置されている。情報に関する人を雇用する予算はあるのか？ ・現在、特定の人はいない。一人１台端末が進んでいくと、スキルを求められていく。どのように確保していくのか考えていかなければならない。 ・まさにスタートラインかな、という気がする。一人１台端末はこれからの時代には、必要不可欠であり、このツールをどのように使っているのかが大事である。ベーシックなところでは、全員が使いこなせるようになること。更に、どこかの大学（東海大、横浜国大、神大等）に協力を要請することなどにより、とびぬけていく子どもが出てくると思うので、是非支援してあげられると良い。 ・小中学校では、娯楽に使う、ゲームを入れたりする、などの問題が起きている。また、道路でゲームを始めていて、盛り上がった時に、道路にはみ出て交通事故になりそうになったこともある。白熱した時に、危険になることもあるため、「外で使わない」などのルールを徹底しないと使い方を間違える。 ・リテラシーという部分では、家庭との協力も必要。いじめ問題にも発展していくこともある。 学校目標２ 【意見】 ・保護者の間では、サップの体験を計画実施している。来年度夏ごろに体験会を予定している。平塚市では、外部の活動としてもサップが盛り上がっている。 ・インクルハブ湘南でもサップに取り組んでいる。大会にも出ている。サップは、デフコミュニティの中では、盛んであり、手話でもできる。神奈中スイミングスクールでも応援してもらっている。部活として取り組むのかは別としても、PTA の保護者が積極的にかかわっているので、検討してもらっても良いかもしれない。水に浮くという行為は、リラックス効果、ストレス軽減の効果もある。平塚ろう学校では行っていないが、デフコミュニティでは活動している。平塚支援学校では、学校で体験会を行ない保護者も参加している。湘南支援学校では、体験会に参加してもらっている。 ・スタートは部活動の話だったが、この話題をきっかけに、部活の位置づけを考え直すこともできる。 ・今後、ろう学校の生徒が減っていくので、チームスポーツがなかなかできなくなる。一人でもできる活動をしていくのはいいと思う。 ・部活動問題は、教員の働き方改革が発端となっている。部活動はものすごい大変。そこをどうするのかという考えが底辺にある。もし、何かしようとしたときに、責任者はだれ？誰がどうやるの？という問題は必ず起きる。地域の中学校でも、部活動を土日だけ外部にお願いする動きがあるが、土日に何かあった時に、月曜の朝にしか情報が入らない、ということに対する教員の不安等、色々と課題がある。 学校目標３ 【意見】 ・企業にも、非常に積極的に見学に来ていただいている。かつては、ろうの方を採用していたが、今は採用したくてもできていない。また、せっかく就職したのであれば、長く続けられることが大事だと考える。ろう者だけで、かたまってしまう傾向があり、社員の輪に溶け込んでいけない傾向がある。聴者が悪いのかもしれないが、仲間ができないと会社はつらいところになってしまう。知的障害者だと、契約社員やパート採用が多い。ろう者は、正規社員で雇用するので、つまり、求められることも多くなり、戦力と捉えている。そういう心構えをもってきて欲しい。

	・法定雇用率2.3%からまた、上昇すると見込まれる。相談事業所にもろう学校から、登録している人が１～２人いる。何かあった時の相談場所となっている。毎年15名位新規登録がある。課題としては、登録するのはよいが、活用していない人もいる。困った時に頼れる場所である、ということをご本人も家族も知っている必要がある。その辺の情報共有に関しても学校と連携して行っていきたい。 学校目標４ 【意見】 ・ずっと、お互い検討してきた大原公民館祭りでの和太鼓演奏については、学校のスケジュールと合わせるのが難しく、動画で流すということになった。3/3に行う。 ・12/3 に湘南手話市場のイベントを実施した。500 人以上のお客さんが来てくれた。ろう難聴者、聴者関係なく交わることができた。カフェとコラボし、子ども達がコーヒーの販売を行った。5/11 に２回目をやることが決まっている。ぜひ来てください。 ・湘南手話市場は平塚ろう学校の保護者が中心となってやっている。先生方にも協力してもらっている。茅ヶ崎中央公園を会場としている。企業の方々も寄付をお願いしたい。お手伝いでもなんでもご協力お願いしたい。 学校目標５ 【意見】 ・学校管理に関して他にも課題はないか？ 【説明】 ・課題は沢山ある。防災、不審者対策等で、係としては重点的に訓練を実施したい。実践例も知りたい。 【意見】 ・会社では不審者対応としては、守衛所があるので外部者は入れない。避難訓練ではコロナ禍で机上訓練も実施した。実際に地震発生時ケガ人の想定をしての訓練（リアルなケガ、より具体のケガのイメージ）でトリアージを求められる場面もあった。 ・当事者の訓練、対策はどうしているか。 ・町の訓練に１回だけ参加した。安否情報（玄関に黄色いタオルなどの目印を示す）等があった。 ・笛を使って知らせる（安否）方法がある。身近なものの活用をしていく。 ・地域の取組では、一時避難所（いっとき避難所まず集まる）の存在を知らない住民が多い。在宅避難で必要なことをファイルに示して配付するなどを考えている。 （２）　令和６年度～令和９年度の学校ミッションについて 【意見】 ・別の話題になるが、１年間学校の様子を見てきて、放課後デイサービス事業所の車が沢山あって、びっくりした。それに合わせて駐車場の確保が必要ではないか。運営協議会の力をお借りして駐車場の確保を考えることはできないか。 ・駐車場確保をこの会議でどうにかすることはできない。ただ、放課後デイサービス事業所の問題はどこにでもある。特別支援学校の校長だった時は、数えてみたら、事業所の車が、46台あった。SBも７台あり、それ以外に保護者の車もある。学校設立の際には、事業所利用がここまで活発になると想定していなかった構造になっている。駐車場を増やせばいいというものではない。玄関前の混雑や安全対策をどう整理するかが学校としての課題。そういった観点がこの会議上での課題となれば、ここで話し合う

	ことはできる。 ・学校として、駐車場を作ることは、難しいでしょうか。 【説明】 ・本校は、まだ、恵まれている方だと思われる。他の学校はさらに大変な現状がある。県立の特別支援学校としてどう考えるのかは、これから取り組んでいきたい。そして、何ができるのか今すぐには、答えられないが、大事なのは、安心、安全をどう実現していけるのか。引き続き考えていきたい。